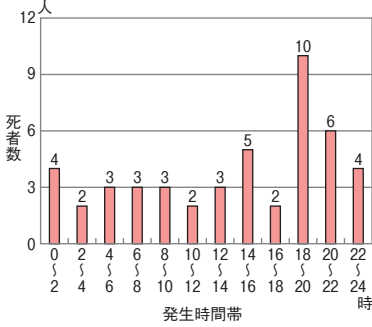


多発する交通死亡事故

道内における交通事故死者数は、十一月二十日現在、二百六十一人で**全国ワーストワン**となっており、また市内でも交通事故によって四十七人の尊い命が失われています。交通事故は、スピードの出し過ぎや横断歩道以外での横断などの**交通ルールの無視**や、うっかり・ぼんやりといった**注意散漫**が主な原因となっています（**下図発生事例参照**）。また、市内における死亡交通事故は夜間（午後六時～午前二時）に多く発生しています（**左図参照**）。

これは、夜間に注意力や集中力が低下しやすくなること、また、周りが暗くなることで歩行者などの発見が遅れたり、距離感を誤って認識したりすることが原因と考えられています。

<時間帯別交通事故死者数>



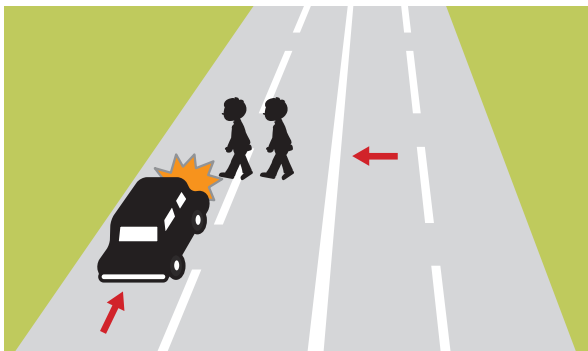
■交通事故発生事例

発生時刻 午後8時ごろ

自動車が直進中、右から左に横断中の歩行者2人と衝突し、歩行者1人が死亡。

現場は横断歩道のない片側2車線の直線道路。

※市内では同様の事故がほかに5件発生。

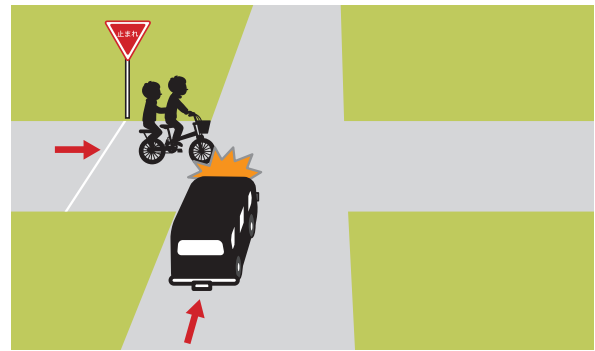


■交通事故発生事例

発生時刻 午後6時30分ごろ

自動車が交差点を直進中、左から交差点に進入してきた2人乗り自転車と衝突し、自転車に乗っていた2人が死亡。

現場は信号機のない交差点で、自転車側に一時停止の標識があった。



交通事故から身を守る

夜間に発生しやすい交通事故から身を守るために、次のことに注意しましょう。



自動車は

- ①夜間は速度感覚が鈍るので、スピードの出し過ぎに気をつけましょう。
- ②「早め点灯」で、確実な安全確認をしましょう。
- ③ヘッドライトの届く範囲しか見えていないことを認識しましょう。



歩行者は

- ①横断歩道や信号機があるところを横断しましょう。
- ②外出時は明るい色の服装と夜光反射材を装着しましょう。
- ③道路を横断する時は、近づいてくる車が通り過ぎてから渡りましょう。



自転車は

- ①自転車も車両です。飲酒運転や一時停止無視、二人乗りはやめましょう。
- ②運転する人だけではなく、自転車にも夜光反射材を装着しましょう。
- ③事故に遭った自転車の多くが無灯火です。自転車もライトを必ず点灯しましょう。

出かけるときは忘れずに

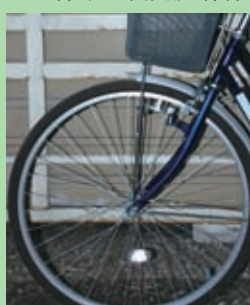
夜光反射材は、車のライトを反射して光ります。

身に付けていると自動車から歩行者がよく見えるようになります。

歩行者も自転車も夜間に外出する際は、夜光反射材を装着しましょう。

歩行者は靴のかかとやかばん、自転車は前輪のスポークや後方から見えるようにサドルに付けると効果的です。

▼自転車の前輪スポークに付けた夜光反射材



◀いろいろな夜光反射材



◀サドルに付けるライト



次のページでは、これから迎える冬の交通安全と交通安全運動に携わる地域の方や団体を紹介します。